

### \* タイガー計算機、そろばん、計算尺、電卓を収蔵

アーカイブ室新聞 155号に東京天文台時代の旧測光部の遺品をいろいろ託されたと書いた。その中にタイガー計算機 No. 423933 (灰色のもの) があった (写真 1)。この計算機は四則演算用であるが、足し算、引き算に用いる人はいないだろう。それは数値を入れるのに時間がかかるからである。掛け算、割り算に用いた。筆者が入る以前に東京天文台時代に天文計算部というのがあった。元台長の古在さんはこの天文計算部に入ってこのタイガー計算機を愛用した。古在さんはタイガー計算機を回す速さを「誰にも負けない」と自慢していた。この計算機は灰色だが、黒いものの方が、重厚感がある。このタイガー計算機は、使われなくなっても誰も捨てなかったようで何台も残っている。



写真1 収蔵したタイガー計算機

筆者が、岡山天体物理観測所に入った頃、まだこの計算機は使われていた。しかし、その頃購入された電動計算機に押されてだんだん使われなくなった。電動計算機は、このタイガー計算を回す軸にモーターが付いたようなもので、「ガチャガチャ、ガタッ、ガチャガチャ、ガタッ、ガチャガチャ、チン」とやっていた。回っている時が「ガチャガチャ」で、桁送りの時、「ガタッ」、計算が終わったとき「チン」という音がしていた。岡山にはモンローとかいう電動計算機があり、その頃 35 万円だったと聞いた。筆者が高卒で入った初任給が 8300 円の時代、観測所のプリンス・スカイラインというバンの車が 65 万円とか聞いていた時代である。

多分、四則演算だけなら「そろばん」のほうがずっと早い。それでもこういった計算機

が使われたのは、最初の数値の入力を間違わなければ、正確な計算が出来たからであろう。

古い計算機には、日本には「そろばん」がある。そして天文の計算には対数表が有効であったが、対数の計算には「計算尺」が使われた。筆者から 1 世代下った世代では、これらは見たことがある程度の存在になり、部屋を移り、席を替わるようなことがあると、不用品捨て場には、「そろばん」、「計算尺」などが捨てられる。写真 2 のそろばん、計算尺は、天文台の不用品捨て場に転がっていたものである。



写真 3 下から、そろばん、計算尺、電卓

写真 3 の上段の電卓は、筆者が現在も愛用しているもので、四則演算はもちろん、いろいろな関数計算さえ出来てしまう。

そして、現在ではパソコンソフトのなかにこの程度の計算ソフトが組み込まれているので、電卓さえ不要になってしまった。計算機の進歩は早く、電卓さえアーカイブの対象である。